第67回(2023年度) 北海道開発技術研究発表会論文

札幌開発建設部における 「かわたびほっかいどう」の取り組みについて —令和5年度の取り組み内容と今後の展開—

札幌開発建設部 河川計画課 〇菅野 智也 鈴木 史郎

北海道開発局では第8期北海道総合開発計画の主要施策における「世界水準での観光形成」の一環として、河川空間を活用した北海道発の新たなツーリズムである「かわたびほっかいどう」の取り組みを推進している。本報告では、札幌開発建設部における令和5年度の取り組みを紹介するとともに、今後の展開に向けた課題や効果的な広報活動の方向性について検討を行った。

キーワード:かわたびほっかいどう、地域交流・連携、自然環境、広報

1. はじめに

国土交通省では、2020年に訪日外国人旅行者数を 6,000万人まで増やす目標10を掲げており、平成28年3月 に閣議決定された第8期北海道総合開発計画2)では、 「食」と「観光」を北海道の戦略的産業として、世界を 意識しながら更なる振興を図り「世界水準の観光地」を 目指すものとしている。北海道開発局の河川部門では、 四季折々の川の自然環境や景観、水辺の活動やサイクリ ング走行環境等の川に関する情報を効果的に発信し、地 域住民や観光客の水辺利用や周遊をサポートする「かわ たびほっかいどう」プロジェクトを平成29年度からスタ ートした。本取り組みは、単なる観光情報配信だけでは なく、地域キーマンとのネットワークを通じた河川空間 の魅力アップと水辺利活用の促進を重要視しており、北 海道らしい持続的な地域づくり・観光振興に貢献するこ とを目指している(図-1)。「かわたびほっかいどう」 WEBサイト³⁾ では、全道の水辺イベントが集約、広報さ れている。本報告では、札幌開発建設部における令和5 年度の取り組みを紹介するとともに、今後の展開に向け た効果的な広報活動の方向性について検討した。



図-1 かわたびほっかいどうの概要

2. 地域の団体と連携した取り組み事例

札幌開発建設部の取り組みでは、地域活動が「かわた びほっかいどう」に結びついている事例が数多く見受け られる。これらの取り組みについて紹介する。

(1) 河川協力団体との連携

令和6年1月現在、札幌開発建設部では11の河川協力団体⁴⁾ (以下、団体) が指定されており、各団体の活動計画に基づき河川管理に寄与する活動を自主的に行っている。なお、団体は、平成25年6月に公布された「水防法及び河川法の一部を改正する法律」において位置づけられた制度である。団体は国から指定を受けることにより社会的な信用度が向上することや、活動に河川管理者の協力が得られやすくなることなどのメリットがある。

① 石狩川下覧櫂による川下り、夏の夕べ、水上体験 学習

「石狩川下覧櫂」⁵ は、平成8年に設立、平成26年3月に指定された団体である。砂川遊水地管理棟や周辺を流れる石狩川を活用し、札幌開発建設部や空知シーニックバイウェイ、商工会議所などと連携し、川下り体験や遊水地管理棟付近の駐車場を活用したイベントを実施してきた。近年は新型コロナウィルスの影響を受けイベントを開催できなかったが、令和5年度は「かわたびほっかいどう」と連携して川下りと夏の夕べ等のイベントの復活、令和4年度に引き続き水上体験学習を実施した。写真-1に令和5年7月22日、23日に開催された際の開催状況とポスターを示す。(写真-1)



写真-1 開催案内ポスターと当日の開催状況

② NPO法人三笠森水遊学舎によるラフティングツアーサポートと安全講習会の実施

「NPO法人三笠森水遊学舎」。は平成18年1月に設立、平成31年3月に指定された団体である。地域を流れる幾春別川において、管轄する岩見沢河川事務所と連携して河川清掃や植樹活動を行っている。また、地元の三笠ジオパークと連携し、ラフティングツアーのサポートスタッフとしても活動している。また、今年度は、北海道河川協力団体連絡会議「安全講習会分科会」において、リーダーとして安全講習会の講師を担い、安全な河川利用に寄与している。写真-2に令和5年6月に開催された安全講習会の様子と7月に開催されたラフティングツアーの開催状況を示す。(写真-2)







写真-2 当日の開催状況

③赤平ラブ・リバー推進協会共催の「市民防災体験会」 での空知管内における地域活動の紹介

「赤平ラブ・リバー推進協会」⁷ は平成4年9月に設立、 平成26年3月に指定された団体である。地域を流れる空 知川において、管轄する空知川河川事務所と連携して河 川清掃や植花活動を行っている。また、地元で長年に亘 り防犯・防災に関する活動を実施しており、令和5年9月 には第15回市民防災体験会を開催した。同イベントには、 空知管内の4高校、赤平市内の小中学校生約500人が参加した。防災に関する体験イベントや、建設DX実演、救出訓練の他、空知管内の地域活動や「かわたびほっかいどう」の紹介をする機会もあり、管内地元の小中高生にアピールすることができた。写真-3にチラシと当日の開催状況を示す。(写真-3)



写真-3 当日の開催状況

(2) かわたびほっかいどう関連団体との連携

「かわたびほっかいどう」を推進する過程において、各地域のイベントやツアー情報を収集し、河川事務所等と連携することで、さらなる取り組みの強化につながることが明らかとなってきている。ここでは各取り組みと連携した、「かわたびほっかいどう」のPR事例を紹介する。

① 三笠ジオツアー

(三笠ジオパーク推進協議会との連携)

三笠市は1868年に幌内地区で石炭が発見されたことを契機に開拓された場所で、アンモナイトをはじめとする一億年前の生命の痕跡や石炭という大地の恩恵を受けた炭鉱町特有の文化を持つ。三笠市全体が三笠ジオパーク®として指定され、ジオツーリズム、教育活動、保護活動等様々な施策がなされている。ジオツアーとしては年間20回程度が実施されている。かわたびとして、札幌開発建設部、岩見沢河川事務所、幾春別川ダム建設事業所と連携したツアーを令和3年度より実施してきている。



写真-4 開催チラシ

2) CHITOSE RIVERCITY PROJECT 2023

(千歳青年会議所、千歳川河川事務所、SBW北海道、一般社団法人かのあ他との連携)

千歳青年会議所⁹の50周年事業として、千歳市内の千歳川で2014年から各種イベントを継続実施している。令和5年には、飲食ブース、テラスの設置、川遊び、カヌー・SUP・ラフティング、テラスde茶道や未来をテーマとした出店等のイベントが2日間実施され、千歳川河川事務所が、かわたびブースを設置し「かわたびほっかいどう」をPRした。(写真-5)









写真-5 当日の開催状況

③ 一般社団法人かのあとの連携~RIVER CLEAN DAY~

一般社団法人かのあ¹⁰ は、非営利型の事業として小学生向けの野外活動、幼児期ファミリーを対象とした森遊びや環境保全、清掃等を中心に活動している団体である。「かわたびほっかいどう」との連携としては、年2回千歳川のRIVER CLEAN DAYとして、カヌーを利用した千歳川底の投棄物の撤去作業を実施し、法人のHPや「かわたびほっかいどう」HPで活動を動画等によりアピールしている。下記に、当日の開催状況を示す。(写真-6)









写真-6 当日の開催状況

④ 北海道カメラ女子の会との連携強化

北海道カメラ女子の会¹¹⁾ は、「北海道に住むカメラ や写真好きな女性が緩やかにつながる」場をつくりたい

KANNO Tomoya, SUZUKI Shirou

との思いから2014年に活動を開始した会である。女性率、SNS活用率100%、現在の会員数は662名であり、北海道最大のカメラ女子のコミュニティである。同会は、市町村や企業とコラボして様々な魅力を冊子、SNS等で発信している。今年は、2月の砂川遊水地でのアイスカルーセル等のイベント、5月のいしかり市民カレッジの講義と現地ツアー、7月の石狩川下覧櫂の川下りイベントにおいて同行取材し、情報発信した。(写真-7)







級いて北海道開発局札幌開発建設部 札幌河川事務所・副所長の大谷英樹さんに 石狩放水路について教えていただきました

写真-7 当日の様子

⑤ バスツアー会社との連例

今年は、「かわたびほっかいどう」の取り組みとして、バスツアー会社と連携し、河川管理施設、ダム建設事業、ダム管理施設等の見学ツアーや意見交換会を実施し、地域住民等を対象として治水事業への理解を深め、各事業のアピールを行った。6月に総合治水推進週間の現地視察会として川の博物館、弁天丸乗船、札幌市下水道科学館等の各施設管理職員による説明付ツアーを行い、7月には幾春別川総合開発事業の新桂沢ダム、三笠ぽんべつダムの建設現場での職員による説明と意見交換会、11月には定山渓ダムの資料館(写真-8)、クロスギャラリー、ゲート室、展望台での関係者による説明と温泉街を回るツアーを行った。







写真-8 チラシと当日の開催状況

⑥ シン・エベツ実行委員会との協働

千歳川の石狩川合流部付近は、千歳川の特殊堤部の改修事業と、江別市かわまちづくり事業が行われている。江別駅付近の条丁目地区のかつて大川通りとして栄えた地域で活動が活発となり、シン・エベツ実行委員会立が立ち上がった。この地域で初めての取り組みであり、江別河川事務所もブースを出すなど協働体制が確立しつつある。10月14日には、シンガーソングライターによるライブ、地元中学校吹奏楽部や高校のダンス部などのステージの演出やキッチンカー等の出店、デイキャンプスペース、楽しい遊び場、江別河川事務所のかわたびほっかいどうとしてのブースやタッチプールの協力などで、3,300人程度の来場者があり(写真-9)、イベントとして盛り上がりを見せていた。今後のかわまちづくり事業との連携・協働が期待されるところである。



写真-9 チラシと当日の開催状況

⑦砂川遊水地イベントと連携した取り組み

砂川遊水地では砂川地区かわまちづくり計画が登録され、令和4年~5年よりハード整備が実施されている。また、「オアシスパークからゆめまちづくり協議会」が組織され対応や砂川遊水地と管理棟の利用に関する意見交換が活発に行われている。砂川遊水地は、冬季には、ワカサギ釣りとして開放され、遊水地内、管理棟の利用に関するイベントも行われている。令和5年2月11日には、上記協議会、観光協会、河川協力団体等と事業連携し、スノーラフティング、雪山滑り台、バレンタインフェアと「かわたびほっかいどう」として初めてアイスカルーセルイベントを実施した(写真-10)。今後も遊水地の利活用と「かわたびほっかいどう」の連携が期待される。



写真-10 チラシと当日の開催状況

3. 札幌開発建設部「かわたび運営会議」の開催

令和4年度に策定された「かわたびほっかいどう」実施要綱第5条に基づき、札幌開発建設部は運営会議を設置、2回目となる「かわたび運営会議」¹³⁾ (写真-11)を開催した。同会議は、管内の各事務所等及び関係者とのかわたびへの取り組み・ノウハウに関する意見交換、かわたび大賞候補に関する意見交換を目的としている。令和5年度は、12月1日に札幌市内の会場で開催し、河川協力団体7団体、「かわたびほっかいどう」関連団体7団体、札幌開発建設部8課所から44名が参加し、(表-1)に示す11団体から発表があった。今年度は、札幌開発建設部としてのかわたび大賞候補を推薦するために、継続性・連携性・先進性・創意工夫・効果・展開性をポイントで評価し、上位3団体・課所を推薦することとなった。意見交換時における主な意見を以下に示す。

表-1プレゼンタイトル 各河川事務所、関係団体のプレゼン

1	滝川河川事務所	砂川遊水地の水辺空間利用		
		について		
2	㈱櫻井千田	砂川遊水地は、砂川市民の		
		宝物!!		
		三笠ジオパークの「かわた		
	幾春別川ダム建設事業所	びほっかいどう」と連携し		
3	三笠ジオパーク推進協議会	た取組と幾ダムの見学会に		
		ついて		
4	特定非営利活動法人	安全講習会分科会の取組に		
	三笠森水遊学舎	ついて		

(5)	千歲川河川事務所 一般社 団法人 千歳青年会議所	CHITOSE RIVER CITY PROJECT 1 0年の軌跡
6	一般社団法人かのあ	千歳川リバークリーンデイ
7	江別河川事務所	江別河川事務所管内における地域と連携した 取り組みについて
8	シン・エベツ実行委員会	シン・エベツ -川から未 来の日々を描く旅へ-
9	認定特定非営利活動法人 カラカネイトトンポを守る会あ いあい自然ネットワーク	今年はじめてかわたびとし て取り組んだイベント3件 の成果報告
10	北海道中央バス シィー ピーツアーズカンパニー	インフラツアーの紹介
11)	北海道カメラ女子の会 (ビデオメッセージ)	北海道カメラ女子の会の 「川の魅力を知る」 取組について

- ・知らなかった活動・事例を知ることができて勉強になった。
- ・イベントの成功のためには、人の繋がりが大切であることを実感させるプレゼンであった。
- ・川の空間を利用しやすい、日常的な場所にすることが大切。
- ・安全を確保して楽しく川を利用するためには、安全講習の取り組みもしっかり続けたい。
- ・活動は民間が中心でそれを行政が支援する体制ができているとうまく進むという感想を持った。
- ・環境配慮をPRしたい大企業とうまく連携することが活動継続に繋がる。
- ・社会弱者にも目を向けているイベントは、問題提起があり素晴らしい。
- ・大学生との協働は継続性もあり、評価される。 (ダムツアー等のアンケート結果報告)
- ・ダムツアー後の意見感想では、「見学ができてよかった」「ダムの有難さを感じた」「管理していただいて感謝」などの施設や職員への感謝の気持ちが生まれる。
- ・公共施設見学ツアー参加者が「かわたびほっかいどう」の応援団や支援者になる可能性がある。







写真- 11 当日の様子

4. 「かわたびほっかいどう」に関する広報

情報発信については、かわたびほっかいどうHPにて全道的に集約し広報しており、札幌開発建設部管内におい

て、令和5年度、12月22日現在187のイベント予定、イベントレポート、フォトレポート等が掲載されている。また、facebook・X (旧Twitter) ・Instagramでイベントレポート等が143件が公開されている。

前述の北海道カメラ女子の会の「かわたびほっかいどう」関連のイベントレポートは昨年度5回公開されているが、HPとInstagram併せて約5,800回のアクセスがあり、Instagramでは20.0%の高いエンゲージメント率があり、ユーザーの共感を得られていると考えられる。

また、「かわたびほっかいどう」IPでかわたびマップを公開し令和4年度までに夕張川、幾春別川、空知川、雨竜川流域の見る・撮影する(ビューポイント)や、学び、体験など5項目で331地点を掲載済みであり、令和5年度については、石狩川本流沿いの約150地点、掲載写真350枚程度を予定している。下記にかわたびマップ掲載状況を示す。(写真-12)



掲載地点数

	見る・	まなぶ・	あそぶ・	味わう・	泊まる・	승 計
	撮影する	知る	体験する	買う	憩う	I
夕張川	59	19	15	1	1	95
幾春別川	36	7	4	1		48
空知川	65	8	12			85
雨竜川	62	18	15	4	4	103
合 計	222	52	46	6	5	331

写真-12 かわたびマップと掲載地点

5. 現状の課題と解決方策

(1)「かくれかわたび」の発掘と意識づけ

前述の北海道カメラ女子の会が同行取材した「いしかり市民カレッジ」主催の石狩川治水の歴史の講義と現地ツアーでは、職員等が講師を担った。その後の現地ツアーでは、石狩川の治水の歴史の礎とも言える岡崎文吉に関する資料や石狩川の治水の歴史にかかわる展示物がある「川の博物館」の見学、弁天丸乗船、花畔工場跡地、生振捷水路、単床ブロック、護岸工事標柱碑、石狩川治水記念碑等をめぐるバスツアーを行った。このようないわゆる「かくれかわたび」ともいうべきイベントが存在

している。もともとは、石狩市の取り組みであるが、石 狩川の治水を学び現地を見学することは、テーマとして 魅力的であり、まさに「かわたびほっかいどう」といえ る。

また、インフラツアーやダム見学会においては、「かわたびほっかいどう」と位置付けていない事例も見受けられる。今年度は、バスツアー会社と連携して、「かわたびほっかいどう」として定山渓ダム見学+昼食+温泉入浴ツアーを初めて実施した。「かわたびほっかいどう」の認知度は低いが、ダムを見学することでダムの建設や管理への理解が高まり、職員への感謝なども見受けられた。また、定山渓ダムは、札幌市環境局の環境教育としての「上水道を学ぶコース」に位置づけられ、市立の小中学校を対象に見学用バスの無料貸し出しする事業も行われている。定山渓ダムの令和5年度の見学者は、12月20日現在で、31回、1,460人となっており、説明するダム管理職員への負担も課題となっている。

このような過去から行われているイベントや取り組み について調査、検討、実施に向けて連携することで、新 たな取り組みも考えられる。また、日頃の情報交換や 「かわたび運営会議」等での情報共有で河川事務所等職 員の意識づけが重要と考えられる。

(2)河川協力団体等の悩み

河川協力団体活動の中でかわたびとしてのプランがあるが、資金不足・人材不足・準備不足が課題となっている。夕張川の歴史を学ぶツアーや川下りプランはあるものの、活動に至っていない事例があるため、これまで以上に情報交換と河川管理者として連携可能な支援方法を検討する必要がある。

6. 今後に向けて

(1) これまでの取り組みの継続

本報告の、河川協力団体やかわたび支援団体との連携 については、今後も継続し、情報交換を密にしながら取り組んでいくことが重要である。

(2) 河川管理施設を活用したツア一等の実施

今年度の「かわたび運営会議」での意見交換では、ツアー会社より公共施設見学ツアー参加者が「かわたびほっかいどう」の応援団や支援者になる可能性等の報告があった。定山渓ダムツアーの継続や他のダム管理施設の活用も考えられる。

また、前述の砂川遊水地において地元青年会議所等と 連携・協働し、アイスカルーセル等のイベントも盛り上 げていきたい。

(3) 地域イベント団体、既存イベント団体との連携・協働

今年度は、シン・エベツ実行委員会が結成され、江別 かわまちづくり事業とも関連している。動向を注視しな がら「かわたびほっかいどう」に資するようなイベント 等を連携・協働を検討していきたい。

また、川塾などの既存イベントに関しても情報収集、 情報共有等を密に行いながら「かわたびほっかいどう」 に繋がるよう、検討していきたい。

7. まとめ

本稿では、札幌開発建設部における「かわたびほっかいどう」の取り組みの一部について紹介した。これらの取り組みは、地域の各団体の活動や連携がベースとなっているが、単にツアーやイベントを実施するだけではなく、地域の団体と「かわたびほっかいどう」の連携による地域振興への相乗効果も期待されている。水辺にはその地域特有の資源が眠っており、使い方によって、新たな価値を生み出す可能性を秘めている。札幌開発建設部としては、このような取り組みを今後も推進し、関係機関や地域のキーマンとのネットワークを構築し連携を強化することで、魅力的な水辺空間の創出や情報発信による利活用の促進をしていきたいと考えている。

参考文献

- 1)国土交通省官公庁 (2020) : 観光ビジョン実現プログラム 20 20—世界が訪れたくなる日本を目指して一, https://www.mlit.g o.jp/kankocho/content/001353662.pdf (最終閲覧日 2024 年 1 月 9 日)
- 2) 第 8 期北海道総合開発計画;北海道開発局,https://www.hkd.m lit.go.jp/ky/ki/keikaku/u23dsn000000fqs-att/u23dsn0000000fya.pdf(最終閲覧日 2024 年 1 月 9 日)
- 3)かわたびほっかいどう: https://kawatabi-hokkaido.com/(最終閲覧日 2024年1月9日)
- 4) 河川協力団体;国土交通省,https://www.mlit.go.jp/river/kankyo/rcg/01.html(最終確認日 2024年1月9日)
- 5) 石狩川下覧会, https://www. facebook. com/people/石狩川下覧会/100064868040973 (最終確認日 2024 年 1 月 9 日)
- 6) NPO 三笠森水遊学舎,http://ww6. tiki. ne. jp/~h-forest/(最終確認日 2024 年 1 月 9 日)
- 7) 赤平ラブ・リバー推進協会; https://uemurakk.wixsite.com/riverroad (最終確認日 2024年1月9日)
- 8) 三笠ジオパーク; https://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/(最終確認日 2024 年 1 月 9 日)
- 9) 一般社団法人千歳青年会議所: https://chitose-jc.com (最終確認日 2024年1月9日)
- 10) 一般社団法人かのあ:https://gh-canoa.com/ichi_canoa/ind ex.html(最終確認日 2024年1月9日)
- 11) 北海道カメラ女子の会: https://hokkaido-camera.com/(最終確認日 2024年1月9日)
- 12) シン・エベツ実行委員会: https://kawatabi-hokkaido.com/%3Fevent%3D23942 (最終確認日 2024 年 1 月 9 日)
- 13) かわたび運営会議: https://kawatabi-hokkaido.com/2023/12/11/24614/最終確認日 2024 年 1 月 9 日)